# 橘香会

令和元年十月十九日(土)
午後一時始(開場 十二時二十分)
於 国立能楽堂

解説「芭蕉葉の夢」 村上 湛

一時三十分頃

能 **芭蕉** 蕉鹿語

前シテ(里 女) 梅若万三郎
後シテ(芭蕉ノ精) 宝生 欣哉
ワキ(山居ノ僧) 野村 萬斎
アイ(里 人) 野村 四郎

笛 松田 弘之
小鼓 久田舜一郎
大鼓 亀井 忠雄

後見 野村 四郎 加藤 眞悟 青木 健一 八田 達弥 古室 知也 坂井 音隆 長谷川晴彦 浅井 文義 遠田 修 坂井 音晴

地謡

— 休憩 十五分 —

三時五十五分頃

狂言 **鐘の音**

シテ(太郎冠者) 野村 万作
アド(主) 深田 博治

四時二十分頃

仕舞 杜若 キリ 梅若万佐晴
実盛 キリ 浅井 文義
井筒 野村 四郎

地謡 青木 健一 伊藤 嘉章 加藤 眞悟 長谷川晴彦

四時三十五分頃

能 **山姥** 雪月花之舞

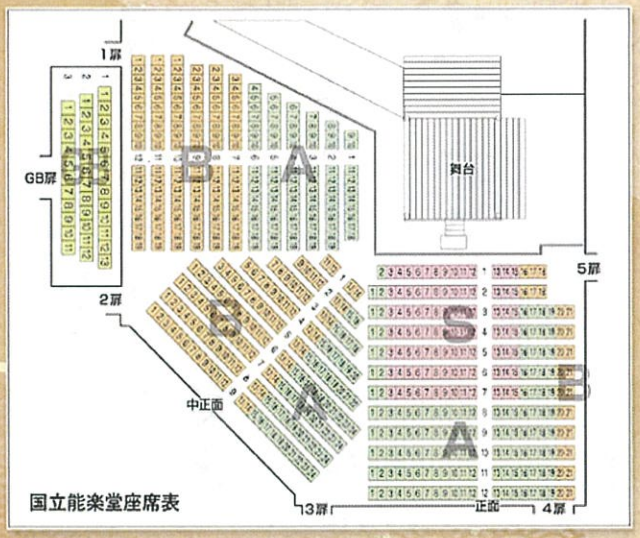
前シテ(女) 中村 裕
後シテ(山姥) 梅若 泰志
ツレ(百万山姥) 福王 和幸
ワキ(従者) 村瀬 提
ワキツレ(供人) 矢野 昌平
ワキツレ(供人) 石田 幸雄
アイ(里人) 栗林 祐輔

笛 古賀 裕己
小鼓 亀井 実
大鼓 大川 典良
太鼓

後見 梅若万佐晴 八田 達弥 遠田 修 梅若 紀佳 青木 健一 伊藤 嘉章 梅若 久紀 青木 一郎 古室 知也 梅若 紀長

地謡

(終了予定 六時二十五分)



国立能楽堂座席表

**入場料**

- S指定席 12,000円
- A指定席 10,000円
- B指定席 8,000円
- GB指定席 6,000円

＊学生 各席 3,000円引き

**お申込み**

公益財団法人
**梅若研能会事務局**
**TEL 03(3466)3041**

カンフェティ 0120-240-540(平日10-18時)
http://www.confetti-web.com/umeken

e+(イープラス) http://eplus.jp/
PC・スマホで簡単お申込み！

## 能 芭蕉 蕉鹿語 (ばしょう しょうろくのかたり)

唐土の楚国、湘水の山中に住む僧(ワキ)。秋半ばの静かな月の夜、僧の読経を聴聞に訪れる女(前シテ)は、「法華経」の草木成仏の謂われについて問うと、庭の芭蕉の仮の姿、と正体を明かし鐘の音と共に姿を消す。夜更けになり現れた芭蕉の精(後シテ)は、諸法実相の理を説き、夏の大きな芭蕉葉も冬には枯れる無常を語り舞を舞うが秋風に吹き散らされ、あとにはただ、破れた葉が残るばかりとなる。小書(特殊演出)《蕉鹿語》により、アイの語りに、鹿と芭蕉が縁で出家した狩人の説話が加わる。

## 狂言 鐘の音 (かねのね)

息子の成人祝いに太刀を贈ろうと思った主人(アド)は、太郎冠者に鎌倉へ行き刀に付ける装飾金具、付け金の値(つけがねのね)を聞いてくるよう命じる。鎌倉へ着いた太郎冠者(シテ)は、様々な寺の撞き鐘の音(つきがねのね)を聴いて廻り…。

## 能 山姥 雪月花之舞 (やまんば せつげっかのまい)

山姥の山巡り芸が得意な京の遊女・百万山姥(ツレ)が善光寺参詣の途中、山中で急に日が暮れる。困惑する一行に声をかけ庵へ誘う里女(前シテ)は、百万山姥の歌を聞くため日を暮れさせたと語り、真の山姥と明かし姿を消す。やがて月夜となり、現れた鬼女姿の山姥(後シテ)は、百万山姥の歌に合わせて歌うと、山巡りの様を見せるのだった。小書《雪月花之舞》により、後の地次第のあとに「吉野竜田の花紅葉、更科越路の月雪」という詞章が入り中之舞を舞うほか、クセの型も変わり、終曲部に緩急がつく。